



# 未来を夢見て Season3

2022/7/19 No. 153

## 教職員の多忙化解消 実効性のある働き方改革を目指して ～1学期お疲れ様でした～

7月14日の河北新報に、大和町で栽培されている行者菜（ぎょうじゃな）が、大和町教育委員会に寄付され、これから給食で頂くことになったことが紹介されていました。この背景には、野菜の値上がりで、給食の食材が高騰していることがあげられます。新聞の記事を職員会議の資料の中に入れておきましたので、担任の先生方からも子どもたちにぜひ紹介してください。

（※写真一番上、7月14日 河北新報朝刊より）

さて、明日は第1学期の終業式。数えてみると67日間の1学期でした。コロナ禍3年目の新学期を迎えましたが、今年は5月に運動会（分散型）、6月にはプール指導再開、全校授業研究（4年生）そして7月には授業参観、そして5年生の1泊2日の花山合宿と感染症対策に留意した上で活動を進めてきました。ここ数日、また感染者が急増し、心配な状況が続いていますが、子どもたちや先生方に大きな事故やけががなかったことは何よりでした

一方、教頭先生方、石川先生をはじめ教職員の皆様にとっては多忙感の残る1学期ではなかったでしょうか。

### 多忙感・・・

実はこのことは、先日の校長会議前の役員会で、上野教育長先生が「昨年度までできていて、今年はできなくなったこと（違うこと）はありませんか？」と投げかけられたことがきっかけでもありました。

小野小の子どもたちは挨拶もよく、授業でも頑張っているのですが、どうも、「もくもく掃除」と「靴揃え」が昨年度までに比べると、やや徹底していないように感じるのはです。先日私たちの言葉遣いが話題になりましたが、私たちも教師である前に人間です。いつも丁寧な言葉で生活しています、といえは嘘になります。

前置きが長くなりました。何が言いたいのかというと、多忙の中で、先生方に「ゆとり」がなくなっているのではないかと・・・、ということです。結果、清掃や靴揃えまで指導が届いてないのでは、ということです。無理もありません。それでなくても感染症に留意した学校生活を守らなければならないのに、今年は、昨年度以上に、行事や活動が多くなりました。もちろんそれが子どもたちのためであることは皆さん理解してくださっているのですが・・・。

「忙」は「心を亡くす」。目の前のことだけに追われていると大切なことに、いつの間にか気が付かないでいることが多くなってしまいます。特に、心は目に見えないだけに見過ごしがちです。

明後日から夏休み。皆さんが少しでも「ゆとり」を感じる職場になるように、実効性のある「2022 小野小での働き方改革」が私の夏休みの課題になりました。みなさん1学期、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

（文責：手代木）

